

平成17年(2005年)6月28日 火曜日

奈良町

安全・快適な町家暮らしを

まちづくり研究会がパンフ作製

奈良市の「奈良町」の歴史的な町並みを保全しながら高齢者でも安心して快適に暮らせるまちづくりを目標と、「奈良町の安全・安心・快適な住まい&まちづくり研究会」は、一年間

「暮らし」(A4判、六分冊)を制作した。同市新屋町で平成十一年と二年続けて、火災で逃げ遅れた独り暮らしの高齢者が死亡した。自治会は防火バケツを軒先に置くなど防火意識の向上に取り組んだが、具体的な防災・防犯への取り組み、緊急時に備えた体制づくりは、な

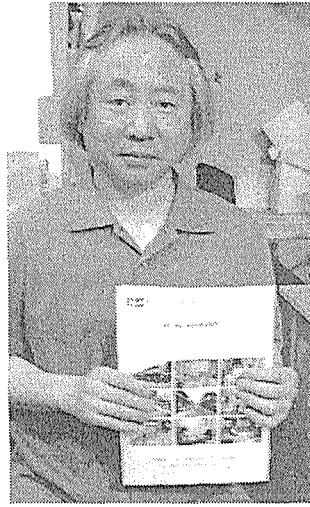
かなか進展が難しかった。そこで、奈良まちづくりセンターが上島晴久理事を中心に、まちづくりへの取り組みの試案を作成。住環境の調査事業を対象にしたハウジングアンドコミュニティ財団の平成十六年度助成事業に選ばれた。中新屋町自治会に協力を呼びかけ、共同で研究会を設立、安全

・安心・快適なまちづくりに向けた取り組みを始めた。まずは、町内の独り暮らし高齢者に聞き取り調査を実施。警備会社や消防団など専門家を招き四度のワークショップも開催。防犯や防災の視点から奈良町の不安点を検討した。住民の高齢化や建物の老朽化、商店

の増加による夜間の町の空洞化などの弊害で問題は山積み。それぞれの要素を整理し、自治体を中心にNPO、行政、専門家、企業がどう協力することで、問題解決の糸口がつかめるのか議論を深めた。

ことし四月に「中新屋町プロジェクト」の概要報告書の完成。カラー写真を多用して高齢者にも分かりやすいように要点をまとめたパンフレットが今月、ようやく出来上がった。完成したパンフレット二百五十部を、中新屋町の住民や奈良町各自治会長に配布した。パンフレットには、奈良町の特殊な環境を考慮して、町家造り建築の点検や補強方法、緊急避難口の確保に関する注意などを記載。専門の企業が情報提供した火災報知器や緊急警報ブザー、センサーライトなど最新の防犯・防災アイテムが紹介されている。また、公園や防火水槽、消火栓の整備など、行政に対する注文も。

上島理事は「これを機に行政に対しても安心して暮らせるまちづくりを訴えていきたい」としている。



完成したばかりのパンフレットを手にする上島理事
|| 奈良市中新屋町の奈良まちづくりセンター